

平成二十六年 造幣局桜の通り抜け

俳句入選句

辻田 克巳 選

特選

(三句)

桜雲に重ねる生を慶びぬ

大阪府大阪市

若松 陽子

【評】 「桜雲」は「花の雲」。年を重ねてもまた来ら

れたことを自祝する「慶び」でもあろう。

退職の自由たまはり花日和

大阪府吹田市

矢吹 あさる

【評】 「退職」は嬉しい体験もしくは節目ではないが

「自由」が引換なら。「花日和」がその心。

紙燭して花の下なる筵かな

兵庫県神戸市

出店 智恵呼

【評】

「夜桜」や「花筵」という既成の季語を使わずに見事にその趣きを言い止めたのは立派。

入選

(五句)

幼子の指さしてをり八重桜

大阪府大阪市

大鹿 正男

濡れてゆく通り抜けなり花の雨

大阪府大東市

椿 恒裕

再会を約せし花の訣れかな

大阪府大阪市

吉川 小静

眠さうな朝の楊貴妃桜かな

大阪府大阪市

小林 虚人

通り抜け笑顔の祖母を観る日かな

大阪府大阪市

山野 香織

佳作

(二五句)

自動ドア開けば散り込む花の屑

大阪府大阪市

山田 天

杖ついて歩く姿や花の下

大阪府大阪市

富田 治男

名にし負ふ桜の宮の花ざかり

大阪府大阪市

横山 泰典

すれちがふとき手をあげて花見船

奈良県生駒市

塩川 雄三

佇みて花の心に触れにけり

広島県広島市

正山 史明

造幣の硬き仕事に花万朶

大阪府堺市

米田 紀夫

花筏源八橋をくぐりけり

大阪府大阪市

鎌田 亜也子

大川暮れ夜桜となる通り抜け

大阪府寝屋川市

数藤 茂

花冷や水上バイクの波しぶき

京都府京都市

橋本 小たか

花吹雪浴びて峠の石の神

大阪府大阪市

村田 照枝

はなびらがふわふわとんで雪みたい

大阪府枚方市

宮田 ひより

通り抜け八重の狭間の昼の月

大阪府大阪市

松室 和子

花冷をいとはず川に沿ひ歩く

大阪府八尾市

神戸 重子

花見舟枝垂れの下で櫓を休む

和歌山県和歌山市

古梅 敏彦

蘭蘭てふ桜園児のお気に入

大阪府大阪市

川口 眞一郎

花便り二円切手の追加貼る

大阪府大阪市

堀脇 昌子

船内を給仕があるく花見船

大阪府大阪市

濱上 ミツエ

ジェット機の爆音響く花の空

滋賀県草津市

幸 湖

開門を待つ高ぶりや春日和

東京都福生市

沢田 弥生

一人来し造幣局の花の道

兵庫県神戸市

三甲野 敏恵

カメラ持つ手に花びらが舞いおりる

根木 おおみ

通り抜け疲れてかがむ花の下

大阪府松原市

皆川 真紀子

折からの桜吹雪となりにけり

大阪府大東市

堀 志皋

日傘差し咎められもす通り抜け

奈良県大和高田市

卜部 千代子

夜桜も見てもたきかな通りぬけ

大阪府松原市

中野 雅弘

選者吟

辻田 克巳

花人と思ひ思はれつつ歩む

花の上銀ひらめかす着陸機

夕日差し入り八重桜翳濃くす

通り抜け浪花の花の野外劇

ページメント

花の月コペルニクスを戸惑はす